

ニナプロジェクト・ホタルン (カワナ親の会)

ニナプロジェクト・ホタルンは、水環境指標生物ホタル保護活動のため、養殖したカワナナの放流によりホタルの発生を持続させ、河川環境活動・生物多様性保全教育に取り組んでいます。



源氏ホタル「特別天然記念物指定地」の環境（ホタルンロード） 整備と浚渫河川へのカワナナの放流事業及びカワナナ養殖水路改修

米原市長岡地区には、ホタルを通じた水環境の保全活動の実践と、ホタル祭りを通じ環境保全の大切さの発信を90余年続けてきた歴史があります。その取り組みが評価され、日本で唯一の国の特別天然記念物「長岡の源氏ホタル及びその発生地」に指定されています。今回は、地元の環境グループが「山東町の水環境」について研究した結果を元に、ホタル保護活動を通じた水環境保全の情報発信と実践のため、地元有志により地域活性化の目玉事業としてプロジェクトを立ち上げました。休耕田を活用したカワナナ養殖水路を手作りする、従来の発想の転換を図った事業です。

「ホタルの発生の時期」だけでなく、ホタルパトロール、草刈り、泥上げ、ホタル祭り等、天然記念物の「長岡の源氏ホタル及びその発生地」を年間を通じた情報発信の一つとしてホタルンロードの整備を計画しました。ホタルンロードは、親子の「絆」事業として、特別天然記念物指定地の天の川護岸に絵図を描き環境保全のシンボルとして企画しました。滋賀県長浜土木事務所、米原市関係各課、地元関係団体、絵図を描いていただいた親子の皆さんの民・官・学の共同参画で部分完成しました。今回の助成を受け、大いに効果を上げたと思います。

巨木と水源の郷をまもる会

巨木を育む豊かな森と水源の郷をつくる トチノキプロジェクト

トチノキ伐採をきっかけに、トチノキ調査やトチの恵みに感謝するトチノキ祭、調査発表会、観察会を行ってきました。
<http://kyobokutosuigennosato.jimdo.com/>



これまでに約70筋の谷に入り、トチノキ等巨木の分布および生育調査をし、巨木の戸籍簿をつくりました。また、会主催のトチノキ観察会や、びわ湖トラストをはじめとする観察会希望団体へのガイドなども行いました。秋の源流の郷で開催したトチノキの恵みに感謝するトチノキ祭りには400名以上の参加がありました。調査・研究の成果については、3月末にトチノキ発表会を朽木やまびこ館で実施しました。

調査活動でトチノキの分布状況を明らかにし、また、観察会やトチノキ祭り、発表会、源流の森づくり活動を通じて、巨木の魅力を多くの方に知っていただくことができただけでなく、源流の森の価値・重要性についての認識を深めていただきました。

これまで活動経費は、会員の寄付に頼ってききましたが、助成をいただいたことで、広報・啓発活動を活性化させることができました。その結果、トチノキの魅力・源流の森の価値・重要性を地元住民だけでなく、広く世間に知ってもらうという目的の達成度が高まりました。



ぼてじゃこトラスト

貴重種イチモンジタナゴの野生復帰に向けた活動

会員約65家族、ぼてじゃこが棲める豊かな自然環境を守ろうと設立、「フィールド中心、楽しみながら活動しています。」



イチモンジタナゴの野生復活を目指し、5年間活動を続けています。助成事業では、①自前のビオトープを設置して3年経過、修理・修復が必要になり、イチモンジタナゴの安定的な繁殖保存と会員の憩いの場、子どもたちの遊び場としてビオトープを意識し、作業しました。②里親学校ビオトープでの繁殖保存を通じ、環境学習、地域支援の輪を広げました。大津市逢坂小・上田上小、近江八幡市北里小学校で実施しました。

活動の成果としては、本格的な修復を実施したことにより、長期使用に耐えられ、イチモンジタナゴ繁殖に最適な環境となりました。昨年からはスタートした北里小学校はメダカの学校小田分校ビオトープと同時並行で実施、学校、地域との連携ができ、画期的な取り組みとなりました。

助成が活きたと思う点は、大掛りで本格的なビオトープ整備と会員の憩いの場ができたことです。整備を通して会員の絆が深まりました。イチモンジタナゴの里親学校が3校に増え、増殖実験を通じ環境学習が定着してきました。



NPO法人 愛のまちエコ倶楽部 里山と里地をつなぐ、地域内循環農業の再構築事業

東近江市愛東地区で、「食とエネルギーの地産地消」をテーマに、環境や農業の再生を目指して活動している団体です。
<http://www.ai-eco.com/>



昔の暮らしは、里山と深く関わっていました。そのつながりを取り戻したいと、3回の活動を行いました。これまで農業体験や里山整備活動に参加してきた人たちが、共同で里山についての学習会、里山の腐葉土採取、腐葉土を使った野菜栽培、採れた野菜を使った昼食交流会などを行いました。また、伐採した木の太い部分は薪にし、枝葉はチップ機にかけて堆肥化に挑戦中です。

新しい参加者はもちろんですが、農業体験のみ・里山活動のみ参加していた人たちも、里山と里地のつながりや資源の循環を学び、実践することができました。里山も農地も元気になるしくみづくりの第一歩が踏み出されました。

この助成をきっかけに、2005年から続けてきた農業体験と里山活動につながりを持ってました。使い道のなかった伐採木の枝葉には、新たな可能性が生まれました。なかなか開催できなかった学習会も開催でき、たくさんの発見がありました。



特定非営利活動法人 蒲生野考現倶楽部

佐久良川周辺里地での貴重動植物の 持続可能な保護活動の探索

「たんけん・はっけん・ほっとけん」をスローガンに身近な水環境や、里地里山の環境を学び伝えます。
<http://www.gamouno.com/>



日野町川原地区にて、環境省のモニタリングサイト1000里地調査に参加し、植物、野鳥、ホタル、水環境についてこの5年間調査を実施した結果、当地には希少動植物が残されていることがわかりました。しかし、農耕地の放棄や除草剤の使用等が始まり、これら希少動植物が消えようとしています。そこで、調査結果を冊子にまとめ、先住民に関心をもってもらうことを目指しました。毎月調査している私達の姿やこの調査報告書を見て、希少動植物がここに暮らし、これらを守ることの大切さに関心を持ってもらえたのではないかと思います。希少動植物がこれからも生息できるように、例えば具体的な草刈りの時期や回数など、今後地元の方と検討する予定です。

モニタリングサイト1000里地調査はこれまでほとんど自己資金で実施してきた活動ですが、この度の助成金を使って5年間の成果を調査報告書としてまとめることができました。地元の方が多様な生き物に魅力を感じ、後の世代に残していきたいと思うきっかけになるのではないかと期待しています。



エコノボイス滋賀

エコノボイス寄席

滋賀県立水環境科学館旧スタッフが立ち上げた水と環境の学習ボランティア団体として“落語”で環境保全活動の啓発イベントを開催しています。



多彩な水環境保全啓発イベントを実施した経験を活かし、寄席で環境を考えるというスタイルが県民に驚きを提供しています。環境がテーマの創作落語を作る過程で、多くの活動団体との交流が生まれ、その裾が湖国各地域の特徴ある環境保全に関する取り組みを紹介しつつ波紋を生み出します。湖西（今津）湖南（浜大津）湖東（蒲生）で開催しました。

開催後にその活動団体に対して、微力ながらサポートができたと思います。滋賀、近江、琵琶湖は広い。様々な環境保全活動が展開され、知らない事が多くあります。啓発イベントは確実に成果を生んでいます。

一開催を3ヶ月で行うには、助成が大いに役立ちました。素敵なイベント構築には、時間とアイデアが必須で、それを完成させて「流石に夏原グラント」と言われたものです。助成を活かすも殺すも、今後の活動が大切だと思います。

